

1. 評価結果概要表

作成日 2009年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3470104369
法人名	社会福祉法人 広島光明学園
事業所名	グループホーム 光明牛田
所在地 (電話番号)	広島県広島市東区牛田旭一丁目14-26 (電話) 082-211-3040

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年10月9日	評価確定日	平成21年11月17日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	9人	
職員数	9人	常勤 8人,	非常勤 1人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上 4階建 2~3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~60,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 1,500円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9人	男性	0人	女性	9人
要介護1	1人	要介護2	0人		
要介護3	5人	要介護4	1人		
要介護5	2人	要支援2	0人		
年齢	平均 85.5歳	最低	71歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	碓井内科胃腸科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム光明牛田は、街中の4階建てマンションを改装したホームです。マンションの2階と3階を使用して一つのユニットとして使用している建物上の制約がありますが、家庭的な間取りとなっており、利用者の居室は「自宅の自室」のような雰囲気があります。車通りの多い地域で、近くには、小学校、スーパーマーケットがあり、子どもの声や人々の話し声が聞こえ、地域で暮らしていると感じられる環境です。1つのユニットが2階と3階に分かれているため、支援上苦慮している点がありますが、職員は、利用者本位の暮らしが実現できるように話し合い、課題を解決するために取り組んでいる様子が確認できました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>日常的な外出や希望に合わせた入浴などに取り組むなど、職員配置が少ない中、できる限り利用者のペースに合わせた暮らしを実現できるよう取り組まれています。なお、運営推進会議のメンバー拡大については、引き続き取り組んでいただくことを提案します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎年、自己評価に取り組む中で、職員からは「一人ひとりに合わせた支援をしたい」という意見が出てくるなど、自己評価に示された項目と日々のケアが結びつき、課題や提案となって職員会議で発言されるようになっていきます。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2か月に1回定期的に開催されています。利用者、地元民生委員が参加するなど、重層的にホームの運営を検討するメンバー構成となっています。なお、地域に根ざしたホームとしてステップアップするために、自治会、地域住民等の参画を期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは、利用者の暮らしぶりを定期的に「状況報告シート」で伝えるほか、変化があった時には電話連絡を行うなど、信頼関係を構築し、家族の不安が軽減されるような配慮が見受けられます。また、家族から寄せられた意見等は、職員会議に議題として提出し、全員で検討するなどの取り組みが行われています。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>母体法人が町内の個人所有の土地を借りて、米作りを行われています。季節ごとに行われるさまざまな作業をイベントとして企画し、花田植えや稲刈り(収穫祭)などを地域と一緒に開催し、年間を通じて地域との交流が行える環境をつくり、最大限に活用されています。</p>
重点項目 ④	<p>また、町内会に入会し、掃除への参加、回覧板など日常的な交流の機会も設けられています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が掲げる理念をもとにして、ホーム独自に①家庭的な雰囲気大切に、②地域との交流を心がけよう、③明るい笑顔を絶やさない、と3つの理念を掲げています。ホームの理念は、母体法人の理念と連動し、地域への貢献を前面にした、地域密着型サービスとしての理念となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2階、3階の入り口に理念を掲げています。日々の業務の中で常に目に入る場所にあるため、職員の中に浸透しているといえます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員は町内の清掃にも参加していると同時に、夏祭りやおおずき祭などの地域行事に参加されています。また、町内の個人所有の土地を借りて法人が行う米づくり(花田植え、収穫祭)などにも参加されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を聞きながら評価に取り組み、改善すべき所は改善していく姿勢をもたれています。また、自己評価、外部評価を継続することで、職員からは「一人ひとりに合わせた支援ができるような取り組みがしたい」という意見が出てくるようになったなど、着実に評価が実践に結びついています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、民生委員、地域包括支援センターの出席のもとに開催されています。不定期ではあるものの行政の担当者の出席もあり、運営推進会議で出された意見をサービスの向上に活かす努力をされています。	○	定期的に運営推進会議を開催されていますが、地域密着型事業所としてさらに地域との連携を深めるために、自治会役員、住民の参加を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本ホーム以外にも地域内に法人が運営するグループホームが複数あります。このため、市町村との連携は、法人本部の総務部門が窓口となって行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に状況報告をされています。遠方の家族には電話で生活の様子を報告をされています。また、毎月郵送する「現状報告シート」は、入居者の暮らしぶりがよく分ると家族から好評を得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、訪問時など機会を捉えては汲み取ることとされています。また、家族から意見が出された場合には、職員会議で検討し運営に反映する努力をされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある時は利用者が理解しやすい言い方で説明されています。また、新しい職員を覚えていただくために、利用者と一緒に過ごす機会を多く設けるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、「施設内研修」を定期的実施されています。交替勤務がある職場の事情を踏まえ、同じ内容が2回行われるなど職員の学ぶ機会が保障されています。研修受講後にはレポート提出が求め、管理職がコメントを入れて返却するという仕組みが定着しつつあるところです。研修テーマは日々の業務と密接に関係する内容が中心であり、職員のレベルアップにつながっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には、法人が運営するホームが複数あるため、法人内のホーム職員との交流が中心となっています。また、研修の機会を利用して法人外の同業者と情報交換をするなど、他施設との交流に努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学によって、ホームの特徴などの説明を十分行い、利用を納得してもらい、利用開始するようにされています。 また、短時間ホームで過ごすなど、利用希望者がホームの雰囲気に徐々に馴染めるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみを利用者に手伝ってもらったり、洗濯物の干し方を利用者から教えてもらったり、家庭的な雰囲気を大切にしながら家庭的な雰囲気を大切にして過ごしておられます。 また、利用者の話を傾聴したり約束したことは必ず実行するなど、信頼関係、支え合う関係を築く努力をされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに向き合う時間を持ち、しっかりコミュニケーションを取りながら希望や意向の把握に努められています。美術館や菊花展へ花を見に行くなど利用者の意向に添った支援をされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、家族からの情報や希望を聞き取り、利用者の状態と総合的に判断して、利用者本位の計画が作成されています。 また、介護計画作成担当者は、介護スタッフからの情報や提案も盛り込まれた介護計画となるよう工夫されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケアの実施状況は、項目ごとに実施状況と評価ができる様式に記録されています。これらの情報をもとに3か月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、同一法人の他部署と連携して、行事の共同開催や、保育園児との交流も行われています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との通院を原則としますが、家族が同行できないときは、職員が付き添われています。体調不良や緊急の場合も受診の支援をされています。 また、関連法人にある病院は、夜間の救急病院に指定されており、時間を問わず安心して適切な医療を受けることができます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方については、早い段階で家族、利用者の希望を聞きます。また、そのような場合には、かかりつけ医、家族とその都度話し合っ方針を決められています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を「さん」付けで呼び、一人ひとりを尊重した丁寧な言葉かけをされています。 また、事業所として、勉強会やミーティングの機会をとらえては、利用者の尊厳の尊重やプライバシー保護について周知されています。契約書等の重要書類は、金庫に保管するなど慎重な取り扱いがなされています。		記録類の管理について、個人記録は外部者の目に触れない部屋で保管されています。関係者が入室した際にも、一目で置き場所が分からないような向きに置く、または、カーテン等の目隠しをするなどの配慮を求めます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などは決まっていますが、体調の悪い場合は居室で取ってもらうなど利用者のペースを大切にされています。言葉にできない利用者はそばで気持ちを推し量って支援する努力をされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、苦手な食材でも食べやすいように調理に工夫され、刻みにしたり、ホットケーキのようにふわふわの卵焼きやおむすびにするなど形態にも工夫されています。また、職員も同じ食事を取りながら、さりげなく見守りを行うなど、食事の時間を楽しく和やかに過ごせるよう配慮されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2階で行われています。利用者の身体状況に応じた支援ができるようにシャワーチェアも備え付けてあります。また、湯の温度は利用者の希望に沿うようにしたり、体調に応じて入浴日以外でも入浴できるなどの体制が整っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者へ声をかけ、食器拭きや洗濯物たたみ、掃除などの家事をしてもらったり、誕生日ケーキは職員と利用者が一緒に果物をトッピングをしたり、好きなこと、できることを支援されています。また、絵の好きな利用者には、色鉛筆、クレヨンを使用して絵を描く楽しみを支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは、2階と3階に分かれており、各階への移動はエレベーターを使わなければならないという制約があります。晴れた日は、隣接した小学校の周りを散歩したり、道向かいにある母体法人まで出かけ、保育園児と交流されています。また、家族の訪問時には自由に外出、外食ができます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、交通量の多い市街地にあること、4階建てビルの2階、3階を使用しているという環境にあるため、利用者への安全配慮の観点から、外部に通じるエレベーターの操作は職員が行われています。ホーム内の居室、共有部分には鍵はかけられておらず、自由に移動できています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時に迅速な対応が可能となるように、避難訓練を定期的に行われています。また、ホームはビルの2階・3階部分にあること、避難経路には外階段またはエレベーターを使用しなければならないことを考慮し、避難場所として各階の1部屋を防火ゾーンとして使用できるよう、防火扉を設置するなど、構造的にも配慮されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者と過ごす時間をしっかり取れるよう、摂取カロリー、栄養バランスに配慮した食材を業者から配達してもらい調理されています。 また、利用者の状態に合わせて食事形態に配慮されています。食事量、水分量を記録することで栄養状態の把握をされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、一般住宅を改装しているため、家庭的な間取りとなっています。共用の居間は明るく、季節の花や観葉植物が置かれ、テレビの前にはソファがあります。利用者と職員が囲んで食事を取る大きな丸いテーブルは、くつろぎの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、化粧品、ペットの写真など、馴染みの物が置かれ、居ごちよく過ごせる環境づくりがされています。家族からの希望により、居室に泊まってもらうこともできるようにされています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム光明牛田

評価年月日 年 月 日

記入年月日 平成21年9月4日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 上田 恵子

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	3つの理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員、管理者共、理念に基づき取り組みしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	契約時等、家族には理念を説明している。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方には、あいさつをするなど、こちらから声をかけるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	光明全体で広報している。 地域行事には、常時、参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	行事などの参加を基に、光明全体で話し合いの場を作り、取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度を基に、職員一同、改善点を挙げ、ひとつひとつ丁寧に取り組みを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回実施しており、報告、意見、話し合いをし、サービス向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議が中心であるが、光明の管理部署が、市町村との連携を図り、管理部署とは常に連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	施設内研修等、学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修等参加し、管理者、職員共、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に、本人・家族との話し合いを基に、理解・納得をして頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情はすみやかに対応し、サービス改善に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時は必ず現状報告を行い、訪問に来られないご家族にも、体調変化を含め、何かあれば連絡をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段より、連絡を密に行い、相談の受け入れが出来やすい状況づくりに努め、相談窓口も決めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等設け、話し合いを基に実践できるよう、心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員会議、朝礼、申し送りノート等、協力を求めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	十分に考慮した上での異動を考えている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修会を行い、育成の向上に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	電話連絡等、他の施設との交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティング、スポーツ大会など、光明全体で、職員同士の交流を行い、ストレス解消に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の自己調査等話し合いの場を設け、各自の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所前に面接を行い、本人に話をよく聴き、要望は受け止め、相談も乗るよう、努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談の際に、ご家族の要望・不安等聞き、よく話し合いを行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が、何を必要とされているかを見極め、介護計画を作成し、実行するよう、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が納得し、要求を職員が受け止め、その上でのケアプランを、ケアマネージャーが作成し、実行している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気を大切にしながら、職員とご利用者様との関係を身近に感じられるよう、心掛けている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の協力を基に、ご利用者様との生活が出来ている事を実感している。 又、常時報告も行っている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	日常の様子を報告し、来所される事により、本人様との関係を深めて頂くよう、心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に説明し、外出の機会を設けて頂くよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者様同士が、関わり合えるよう、職員も間に入り、支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	居宅事業所、民生委員との連絡等通じ、時折訪問しながら、関係を大切にしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの個々の持ち味が発揮出来るように努めている。又、ひとりひとりの尊重、尊厳を守っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活に馴染みのある物を持ち込むなどして、これまでの生活環境に近くなるよう、可能な限り、支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の日常の変化など、個人記録に細かく書き留め、現状把握する事に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、ご家族の要望を取り入れた計画を立て、実行している。又、個人ファイルを作り、いつでも職員が確認できるようにしている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを通し、見直しを行っている。ケアプラン作成の際は、本人、ご家族の希望、相談を聞き入れ、取り組んで作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者一人ひとりの個人記録を行い、日々の生活や、本人の状況を具体的に記録し、情報を共有している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	光明全体の行事に参加したりと、本人の要望を含めた支援をしている。		
----	--	----------------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議では、民生委員との情報交換を行っている。		
----	---	----------------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の施設との情報交換を行い、サービスの提供をするよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	問題になっている点など、具体的な場面を挙げて話し合い、解決に向けて、支援している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、ご家族様が希望されている、かかりつけ医を含め、納得をされた医療機関での受診をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣病院の専門医師と提携し、常に状況を知らせ、通院等、相談に乗って頂けるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームの看護師を中心に、健康管理及び、支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、早期退院出来るよう、お見舞いや、家族と連絡を取り、常に現状把握をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	ご家族様とよく話し合い、状況説明も細かくしている。 医師との話し合いの内容も全て、ご家族様に連絡している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけの医師に相談を密に行い、本人、ご家族様の意思を尊重した支援を行うよう、努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	本人、ご家族様とよく話し合い、対応している。 情報交換を行い、本人にも要望・不満を聴くようにしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者一人ひとりを尊重し、尊厳を守っている。 個々に合わせた対応を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者が、希望や要望の言える雰囲気作りと、それを促す取り組みをしている。 入居者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活ペースを大切にし、保てるように配慮、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個人の選択を重視し、一緒に服を選び、同じ服にならないよう助言している。ご家族の支援で美容院に行かれたり、施設内でボランティアを利用し、散髪を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつなど一緒に作ったり、片付けなど状態に合わせて行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々に合わせ、好みの物を取り入れ、喜んで頂けるよう、職員が提供し、支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄記録をこまめに取り、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や、声掛けをしている。夜間もトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2～3回の入浴予定と、本人の希望に合わせて入浴を行っている。又、入浴が出来ない時は、清拭や足浴を行い、対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一日の生活リズムをつくり、自然に睡眠が取れるように、工夫や、声掛けをしている。自室で休息を促したり、のんびり出来る時間を取り入れるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	個々の生活リズムに基づき, 洗濯物を畳んだり, 掃除をして頂いている。 又, 個人の趣味を活かしたり, 散歩を取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	お金は施設側で管理している。心の安定の為, 本人管理の方も有る。買い物は本人の要望を聞き, 職員同伴で行っている。個々の買い物帳を作成し, レシート, 領収を添付し, 記入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	天候により, 近場の散歩に出掛けるよう, 心掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	光明の行事などで, 園バスを利用し, 遠出の外出も行っている。 又, ご家族様の支援で, 里帰り, 墓参りなどの外出もしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望を聴き, 電話をかけたたり, 郵便物を預かり, ポストに入れたり支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様が, 立ち寄りやすい雰囲気作りに心掛け, 来設の際は, ゆっくりと過ごして頂けるよう, 一緒にお茶を飲んだりとくつろいで頂けるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については十分に理解している。 身体拘束はしないマニュアルを作成し、ご家族に了解を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室、ホールなどの鍵は掛けていないが2階、3階とで1ユニットなので、エレベーターの乗降には、職員が必ず同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者一人ひとりの行動パターンを把握し、夜間以外は、2階、3階に各1名ずつ職員を配置し、見守りできるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全ての物に対し、安全な保管場所を決めている。 薬もきちんと管理し、安全性を重視し、取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、職員が内容を理解した上で、取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急時のマニュアルを作成し、それに基づき対応出来るよう、全ての職員が把握している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	月に2回以上防災訓練を行い、何処に避難するかを職員が把握し、誘導できるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	来設された際は、必ず現状報告をし、緊急も可能である事を説明し、理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	身体状況の変化に、早期発見、早目の対応を心掛けています。又、一人ひとりの個別記録、申し送りにて情報を共有し、対応をしている。家族にも連絡を忘れない。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬は職員が管理し、薬の効果を把握し、服薬して頂いている。又、誤薬のないよう、名前、日付も確認し、個々の薬箱をつくり、管理している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個々の排便を確認し、一日一回は乳製品等摂取して頂いたり、便秘のひどい方には、担当医と相談し、服薬等の対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、歯みがき、義歯洗浄し、口腔内の清潔に取り組んでいる。夜間は義歯を預かり、ポリデント消毒を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに配慮し、食事摂取量、水分摂取量の記録を取り、個々の摂取量を把握している。又、足りないところは、個々によって、支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基づき、対応している。一日3回の手すり、ドアノブの消毒も含め、廊下、トイレ、居室内も、掃除と一緒に消毒している。手洗い励行、外部からの来所者の消毒、食品加熱を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所は常時清潔を保ち、調理器具は、ハイターなどに付けて置き、除菌などを行い、清潔にしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	マンションをリフォーム化しているので、わかりやすく、入りやすい、大きな看板、又、手づくりの可愛い表札を設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは明るく、植物、置き物、テレビ、ソファ、電子オルガン等を置き、壁には絵や写真を飾り、くつろげるスペースがある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	中央にテーブル、ソファ、テレビなど設置し、いつでもくつろげるスペースをつくっている。ご利用者が自由に過ごせるように、配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで、利用された馴染みの物を持って来て頂き、自宅と同じような雰囲気作りをし、生活して頂けるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室は、1日に3回は必ず換気している。 消臭剤、芳香剤にて消毒もしている。 冷暖房は、職員が、1時間毎に居室に訪室し、調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止め、段差の改善、手すりの設置をし、入居者の状況に合わせ、安全に生活ができるよう、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	壁は白く、清潔にしている。 居室の入り口には、職員手作りの表札をつくり、ご利用者にわかりやすいように、取り付けを工夫している。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	散歩に出掛けたり、花、野菜作りをするなど、入居者の状況や状態に合わせて工夫している。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目